

## Push 型 SNS を活用している学生に対する調査研究 The Research to the small classes where Push type SNS is being utilized

田島 博之<sup>†</sup> 原田 輝俊<sup>†</sup>  
Hiroyuki Tajima Terutoshi Harada

### 1. はじめに

研究者は学生との連絡をとるための補助的な手段として Push 型 SNS である LINE の活用を 2013 年より始めている。その一方で LINE を学生とのコミュニケーションに活用するためには様々な問題があることもわかってきた[1]。

LINE を活用した当初はスマホを持っていても LINE を利用していない学生や、ガラパゴス携帯のため、push 型ではない LINE を使っている学生も多数存在していた。

近年の学生のコミュニケーション手段は、キャリアを利用した電話通信から、アプリケーションとしてのプッシュ型 SNS (LINE) を利用する時代へと大きく変化している。LINE を取り上げた様々な NEWS がセンセーショナルに取り沙汰され、青少年が巻き込まれる事件が後を絶たない。

このような状況の中で LINE が大学教育にどのような影響をもたらすかについての調査・研究もはじまっている[2]。しかしながら男女間の違いに着目した、LINE 活用の調査研究は少ない。

本研究では本学の学生を対象に LINE の活用状況を知るために WEB アンケートを行なった。本論では、その中から「基本的な利用状況」、「リスクに関する認識」、「コミュニケーションに対する認識」に関するアンケートの回答の一部を取り上げる。これらのデータを男女別に分け考察を試みた。本研究によって現在、LINE を利用する大学生の男女間の相違について 1 つの事例を紹介することができたと考える。

### 2. LINE 利用状況調査基本項目

本項では分析するための基本データを紹介する。

#### 2.1 調査概要

以下は調査概要である。

調査対象学部：総合経営学部、英語情報マネジメント学部、観光ビジネス学部、学校教師学部 (在学者 約 1600 人)

対象学年：1 年～4 年

アンケート期間：2016 年 6 月 20 日～23 日

アンケート方法：Google フォームによるアンケート

有効回答数：204 (LINE 利用者 193 人)

#### 2.2 LINE の利用比率

平成 27 年版の情報通信白書 (総務省) によると LINE の利用率は年代によって大きな差があり、60 代以上で 1 割未満の人しか利用していないのに対し 20 代以下では 6 割以上の人利用している[3]。この資料では 20 代以下で集計されているので大学生の利用度を調査するには向かない。そこで大学生の LINE 利用率の過去の調査によると平成 26 年

度に株式会社トモノカイが行った「大学生の SNS の利用実態」[4]では、調査 248 人中 96%が、また平成 27 年に行われたマイナビ学生の窓口による「マイナビ学生の窓口調べ」[5]では調査 403 人中 78.7%との結果が得られている。今回の調査では、204 人中 193 人 (94.6%) と、ほぼ 100%に近い学生が LINE を利用していることが分かった。

本論は、これら 193 人について分析を行う。アンケートにおける男性と女性の比率は、表 1 にあるように男性が 68.9% (133 人)、女性が 31.1%(60 人)となっている。

表 1 性別と LINE 利用状況のクロス集計表 (横 100%)

	LINE 利用状況				計		
	使っている		使っていない				
性別	男性	93.7%	133人	6.3%	9人	100.0%	142人
	女性	96.8%	60人	3.2%	2人	100.0%	62人
	全体	94.6%	193人	5.4%	11人	100.0%	204人

### 3. 男女別に着目したデータ分析

本章ではアンケートによって得られた LINE 利用者 193 人のデータを男女別の視点から分析していく。

#### 3.1 友人数とグループ所属数

表 2 友人登録数、所属グループ登録数の平均値

各平均値	友人の登録数	所属グループ数	教員運営グループ所属数
男性	102.2	11.4	1.1
女性	92.8	10.3	2.1
全体	99.4 (93.9)	11.1 (10.6)	1.4 (0.4)

( )はH27年度の平均

表 2 は、LINE アカウントに登録している友人数と所属グループ数、および教員が主体的に運営しているグループ数の平均値を示している。昨年度調査[6]と比較すると各値が増加しており LINE 活用度が上昇している。

#### 3.2 リスクに対する認識

本項では、LINE を利用するにあたってのリスク意識に関するデータを紹介する。

##### 3.2.1 LINE 利用時のリスクへの認識

図 1 は LINE を利用することによる危険性を知っているか?との質問に対する回答である。男性が 1/4、女性が 1/3 を超える比率で危険性を認識していないことが分かる。

<sup>†</sup> 秀明大学 IT 教育センター (SITEC)

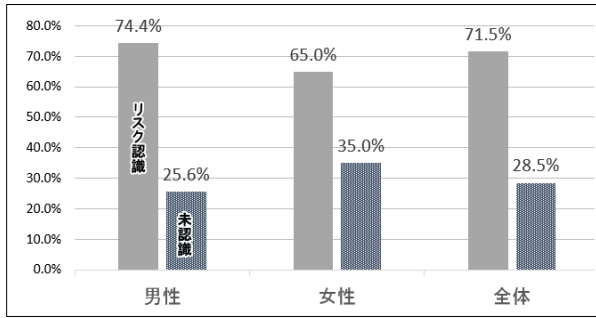


図1 男女別 LINEの危険性の認知度

### 3.2.2 会ったことがない人との友人登録

表3は実際に会ったことが無い人との友人登録数を調査した結果である。中央値を見て分かるように多くの女子学生が会ったことの無い人とは友人登録をしていないことが分かる。

表3 会ったことがない人との友人登録

統計量	男性	女性	全体
平均値	9.4	8.8	9.2
中央値	2.0	0.0	1.0
標準偏差	15.7	19.6	16.9

### 3.2.3 IDを聞かれたときの対応

LINEのIDを聞かれたときに、教えなかったことがあるか?との質問への回答が表4に示される。男女ともに約半数の学生が教えなかった経験を持つことがわかった。

表4 IDを教えなかった経験

	ある	ない	合計
男性	53.1%	46.9%	100%
女性	55.9%	44.1%	100%
全体	54.0%	46.0%	100%

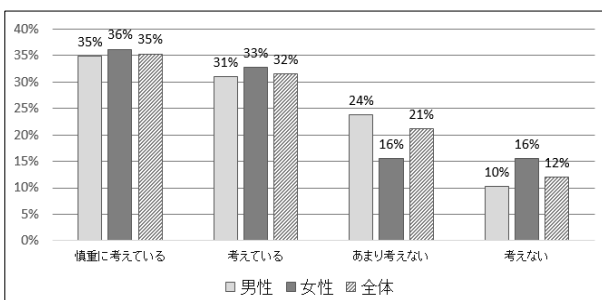


図2 IDを教えるときの注意度

### 3.2.4 IDを教えるときの注意度

人にIDを教えるときの注意度を4つの段階に分けて質問をした。図2からは男女ともに7割近くの学生が、考えてから友人登録をしていることが分かる。

## 3.3 コミュニケーションに対する認識

本項ではLINEを使うときのコミュニケーションに関する問題に焦点を当てた設問への結果を示す。

### 3.3.1 連絡の失敗

表5では学生が連絡する際に起こしてしまいがちな失敗に関する設問の回答である。メッセージを送る際は男性よりも女性の方が慎重という結果が示されている。

表5 連絡の失敗

設問	回答	男性	女性	全体
連絡する相手を間違えた	ある	40.5%	31.0%	37.8%
	ない	59.5%	69.0%	62.4%
文章を間違えて恥ずかしい思いをした	ある	34.4%	28.8%	32.6%
	ない	65.6%	71.2%	67.4%

### 3.3.2 メッセージへの配慮

LINEは気軽に情報を発信することが可能である。表6では「時間帯」、「目上への言葉使い」といった相手に対する配慮に関する調査結果を示している。

表6 相手への配慮

		男性	女性	全体
時間帯への配慮	配慮する	27.1%	18.6%	24.5%
	時々する	26.4%	15.3%	22.9%
	どちらでもない	7.8%	6.8%	7.4%
	あまりしない	23.3%	32.2%	26.1%
	配慮しない	15.5%	27.1%	19.1%
目上に言葉の配慮	配慮する	55.8%	44.8%	52.4%
	時々する	20.2%	19.0%	19.8%
	どちらでもない	7.8%	10.3%	8.6%
	あまりしない	10.1%	20.7%	13.4%
	配慮しない	6.2%	5.2%	5.9%

## 4. まとめ

近年学生達の間で爆発的に広がっているPush型SNSであるLINEの活用に関する調査を行った。本論では、これらのデータから男女の傾向性を見出すための分析している。分析の結果として興味深い点としては、女性はLINE活用に関する危険性の認知度は低いが、実際に利用する際は男性よりも慎重な行動をとっていると考えられた。

今回のアンケートでは更に多くの質問に対するデータも得ている。そこで、今後の課題としては、これらのデータや設問間における関係性についての分析も行っていきたい。

### 謝辞

アンケート作成・収集にあたって、本学IT教育センター長 大塚時雄先生を初めとした、多数のスタッフに御協力を頂きました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

### 参考文献

- [1] 田島博之, “学生の人間形成を目的としたSNS導入に関する考察”, 教育改革ICT戦略大会資料, pp276-277” (2015).
- [2] 加藤千枝, “青少年のLINE利用の実態に関する探索的研究: 高校生のLINE利用に伴う肯定的・否定的経験に基づいて”, 社会情報学会(SSI)学会大会研究発表論文集, pp 113-118 (2013).
- [3] 総務省, “特集テーマ 「ICTの過去・現在・未来」”, 平成27年版 情報通信白書 (総務省), <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/pdf/n4200000.pdf> (2015).
- [4] 株式会社 トモノカイ, “大学生の SNS の利用実態”, t-news, <http://www.tnews.jp/entries/11140> (2014).
- [5] マイナビ学生の窓口, “マイナビ学生の窓口調べ”, マイナビ学生の窓口, <https://gakumado.mynavi.jp/gmd/articles/28095> (2015).
- [6] 田島博之, “少人数クラスの運営に汎用型ソーシャルネットワークを活用した教育事例の研究”, 第14回情報科学技術フォーラム講演論文集 (第3分冊) pp.533-534 (2015).